

経済的徴兵制と、若者を殺人マシンに変えるブートキャンプ

2015. 9. 6.

(1) 『ルポ 貧困大国アメリカ』 (堤未果著) より経済的徴兵制

・「もはや徴兵制などいらないのです。政府は格差を拡大する政策を次々と打ち出すだけでいい。経済的に追い詰められた国民は、イデオロギーのためでなく、生活苦のために黙っていても戦争にいってきますから」(「世界個人情報機関」のスタッフ)

ー米国では、「自己破産」「多重債務」「不法移民」など様々なブラックリストが出回り、社会的弱者を顧客とする「貧困ビジネス」が増殖している。究極の「貧困ビジネス」は戦争である。

イラク戦争への兵士調達メカニズム＝「経済的徴兵制」

◆1972年に徴兵制が廃止された米国で、イラク戦争で若者を軍隊に動員する(志願させる)ために「貧困」を利用。2007年、ブッシュ政権が打ち出した教育改革法(「落ちこぼれゼロ法案」)の中に、全米のすべての高校に生徒の個人情報をも軍のリクルーターに提出することを義務付ける一項がある。拒否すれば補助金がカットされる。

軍のリクルーターは、そのリストで入隊を勧誘する。

◆入隊する若者の入隊動機

1位は大学の学費の軍による肩代わり。

2位は医療保険。入隊すれば家族も兵士用の病院で無料で治療が受けられる。貧しい地区の高校生は、家族も含めて無保険の家庭が多い。家族の医療保険のために入隊。

→「教育」と「医療」という、人が人らしく生きていくために不可欠な条件を奪い、欲しければ軍隊へ。

・医療保険問題はよそ事ではない。日本でも国民健康保険問題は深刻。

◆リクルーター自身ができるようにして入隊した若者。学生を勧誘できなければ自分がイラクにいかされる。だから、「イラクには派遣しない」「州兵として国土をまもる」などとウソを言って入隊させる。そしてわずか半年、一年でイラクやアフガニスタンに送られて戦死したり、ぼろぼろになって帰ってくる。

ホームレスの1/3は帰還兵。もともと貧しい若者が入隊して行くので、帰還したのちは職も保障もなく、心身傷を負い、社会生活への復帰ができない。最悪の場合、自殺へ。

◆高校生だけでなく「学資ローン」や「多重債務」に苦しむ短大生、大学生、大学院生もターゲットに。

※クレジットカードが発達したアメリカでは、学費だけでなく文房具や教科書代などもカードで払い、借金漬けになる学生が多くいるという。彼らは卒業と共に滞納者リストに名前が載せられ、就職もままならない。ここでも奨学金予算の大幅カットと軍の「学資ローン返済免除プログラム」が一体となって機能する。学費の一部肩代わりという誘惑に負け、在学中から軍入隊を選択させられてしまうのだ。

◆州兵に登録しイラク戦争に参加した日本人の若者が登場する。彼もまた、学費が出るし実際に戦争に行くことはないだろうと応募した。「アメリカ社会が僕から奪ったのは25条です。人間らしく生き延びる生存権を失った時、9条の精神より目の前のパンに手が伸びるのは当たり前。狂っているのはそんな風に追い詰める社会の仕組みの方です。」

(2) 人を殺せない若者をどうやって殺人マシンに変えるかーブートキャンプ

ONE SHOT ONE KILL ー兵士になるということー

ドキュメンタリー映画 (藤本幸久監督・プロデューサー影山あさ子さんの作品) より (2008年1月8日～4月11日取材)

人は人を殺すようには出来てはいない。では、どうすれば、普通の若者が戦場で人を殺せるようになるのか。サウスカロライナ州パリスアイランドのアメリカ海兵隊ブートキャンプ(新兵訓練所)の12週間のドキュメンタリー映画。沖縄に駐留する海兵隊員はどのように教育されるのか。

①ブートキャンプ(新兵訓練所)とは。

入隊した若者達が、最初に訓練を受ける場所がブートキャンプ。陸軍、海軍、空軍、海兵隊のそれぞれにブートキャンプがある。殴り込み部隊・海兵隊のブートキャンプの訓練期間は最も長く12週間。若者達は、兵士(海兵隊員)になるための基礎の基礎をたたき込まれる。武器の扱い方や体力作りが目的ではない。最も肝心なことは、「命令には、疑問を持たずに、直ちに、正確に従う」という人格改造。

②パリスアイランド

海兵隊のブートキャンプは2箇所。サウスカロライナ州パリスアイランドとカリフォルニア州サンディエゴにある。ミシシッピ川から東の出身者と女性は、パリスアイランドで訓練を受ける。1915年に開設以来、約100年以上、新兵訓練を実施。

③毎週卒業式

ここには毎週500人～700人の新兵がやってくる。平均で、男性新兵の90%、女性新兵の85%が卒業し、毎週金曜日が卒業式だ。2008年10月ー2009年9月、16万4千人が新たに新兵に入隊、そのうち31413人が海兵隊隊員。約2万人がパリスアイランドの新兵。早ければ数ヶ月でイラクやアフガニスタンの戦場に立たされる。

④最初の教育

新兵達は、到着するまで目を閉じろと命令され、どこについたのかもわからない。そして到着後48時間、眠ることが許されない。到着するや否や、バスの乗り込んできた教官に怒鳴り散らされ、恐怖の中で訓練に突入していく。最初の訓辞。「話しかけられるまでは、話すな!」「I, me という言葉は禁止。自分のことは This recruit と言え!」「返事は!!」

「Yes, Sir!」「声が小さい、叫べ!!」「Yes, Sir!!!」

そして、家族へ電話する。

「こちらは、新兵XXです。無事パリスアイランドに到着しました。食べ物や荷物は送らないでください。新しい住所は7日ー9日の間に手紙で知らせます。協力に感謝します。さようなら」。話

してよいことは、これだけ。その夜のうちに、男性は坊主頭にされる。

⑤体力測定

体力測定の前に、M-16ライフルが支給される。初めて銃を手にして、うっかりの先を他人に向けてしまう新兵もいる。すぐに教官が怒鳴る「どんなことがあっても、銃の先を Marine(海兵隊員)に向けるな!!!」

新兵達は、懸垂2回(女性は20秒ぶら下がり)以上、2分間に腹筋44回以上、2.4kmを13分30秒(女性は15分)以内で走らなければならない。2種目以上の不合格になると、別メニューでの訓練となり、卒業が1週間以上遅れる。この日は、31名が不合格。519名が合格し、訓練部隊に配属された。

⑥新兵訓練6週目、7週目。

6週目「Grass Week」。7週目「Fire Week」と呼ばれている。

ライフル射撃を集中的に実施。最初は、銃の取り扱いについての講義、その後射撃姿勢を繰り返し、ビデオゲームのようなシミュレーターでの訓練し、実弾の試射(ライフルの調整)を経て、実弾訓練に入る。「すべての海兵隊員は、ライフル・マンたれ」が海兵隊のモットーで、何度も銃の取り扱いをたたきこまれるので、実際に実弾を撃つ頃には、200～500ヤード(180～450メートル)離れたところの的にも、よく当たるようになる。

⑦新兵の1日。

朝4時半起床、夜8時の就寝まで、全く休みがない。朝起きて、トイレに行くのも整列・行進、食事時間も短時間で、私語も許されない。四六時中、銃の取り扱いや命令を大声で暗唱させられ、一日1時間の自由時間も宿題や自主トレに励んでいる。

⑧4月4日に卒業。

卒業前の総合訓練「クルッシブル」は、3日間の野外演習。睡眠時間も限られ、実践を想定した行軍、射撃、武術など休み無く課題が与えられる。顔に迷彩を施し、姿は本物の兵士になっている。

4月4日の卒業式の時には、みな4～8kg体重も落ちている。何のために戦うのか、戦場がどのようなところなのか、彼らに実感はない。この後、歩兵学校などに行き、3カ月ほどの訓練を終えると、早ければ7月頃には、イラクやアフガニスタンに派兵される。沖縄に来ることもある。

(参考文献) AMERICA REPORT (アメリカ取材レポート) 影山あさ子さんレポート。

(3) 日本の経済的徴兵制

◆政府の有識者会議「学生への経済的支援の在り方に関する検討会」は2014年8月末に報告書をまとめた。この報告書には盛り込まれなかったが、5月の検討会で、メンバーの1人・経済同友会副代表幹事・専務理事の前原金一氏が奨学金返還滞納者への対応についてこう発言した。

「…まず、延滞している人の年齢別人数を教えてください。それから、延滞者が無職なのか低収入なのか、あるいは病気なのかという情報をまず教えてください。」

「放っておいてもなかなかいい就職はできない」「現業を持っている警察庁とか、消防庁とか、防衛省などに頼んで、1年とか2年のインターンシップをやらしてもらえば、就職というのはかなりよくなる。防衛省は、考えてもいいと言っています。…百数十万人いる無職の者をいかに就職させ

るかというのは日本の将来に非常に大きな影響を与えるので、それをやってほしいとお願いしているのですよ。…」

「防衛省は、2年コースを作ってもいいと言っています。日本国の将来に非常にプラスになると思います。」

→要するに、『奨学金を返せない者は、自衛隊へ送り込めばいい』

◆防衛省（自衛隊）は現在、医、歯、工学系の大学生を対象とした「貸費学生制度」を設けている。これを他の学部、高校などへの拡大もあり得る

※自衛官募集ホームページ 貸費学生

<http://www.mod.go.jp/gsd/jieikanbosyu/recruit/02.html>

◆この間の国会で暴露された「長期自衛隊インターンシッププログラムイメージ」。

「企業と提携した人材確保育成プログラムですけれども、これは防衛省の誰の責任で作成し、誰の決済で前原氏に提出し、そして、当時の防衛大臣は小野寺さんですかね？知っていたんでしょうか？簡潔にご説明ください」

「2年ほど前、内閣官房副長官補室の再チャレンジ担当者から、経済同友会前原さんの意向が伝えられ、防衛省で作成したということでした」

「企業が新規採用者を2年間、自衛隊に実習生として派遣するというプログラムのイメージにつきましてお示ししております。

これは自衛隊のインターンシップ受け入れにつきまして、前原氏側から関心が示された。それを受けまして、防衛省の任期制自衛官制度に当てはめた場合のプログラムのイメージの一案、そういうものとして、課題も含めて、当時、お示しをいたしましたものでございます。」

自衛隊に2年間配属され教育・訓練を受けるという前提で企業に就職する。民間企業をあっせん窓口とした、事実上の自衛隊入隊。

◆学校現場への自衛隊入隊体験の浸透

（４）民営化された戦争 戦争への民間の動員

・「イラク復興支援活動行動史」でも、自衛隊物資の輸送は民間航空会社が担ったことが書かれている。

・現在の戦争は、民営化された戦争であり、特に兵站は圧倒的に民間軍事会社に委託される。戦死者にはカウントされない。

◆高卒のトラック運転手のマイケルはある日突然携帯電話がかかり、年収6万5000ドル（71.5万）の仕事を保証するといわれる。多重債務者のブラックリストを使つての派遣会社への登録の勧誘だ。なんと職場はイラク。説明会では、化学兵器や放射能物質などで死亡した場合は、遺体の本国送還はせず、現地で火葬との説明をうける。派遣登録した会社はKBR社だ。マイケルは1年間、毎日40℃の炎天下で武器をトラックで輸送する過酷で危険な仕事について。米兵たちは基地内のペットボトルの水を飲むのに対しマイケルたち派遣労働者は現地の水を飲むよう会社が指示。米軍が使用する劣化ウラン弾の影響で放射能に汚染されている水である可能性が高い。マイケルは

10ヶ月を過ぎるころ肺に痛みを感じる。だが現地で火葬されてはかなわないと何とか持ちこたえて帰国。約束された年収は支払われたが、ほとんど帰国後の医療費に消えた。白血病の診断。派遣で稼いだ金はあるという間に底をつき、結局家族はイラクへ行く前よりもひどい貧困状態に陥る。現在マイケルはほとんど寝たきり、妻は昼間だけでなく夜もはたらき、トレーラーに引っ越し、政府発行のフードスタンプで食いつないでいるのである。

表8 イラクで米軍がPMSCに委託する業務の割合（2008年度3/4半期）

	PMSC (人)	米軍 (人)	合計 (人)	比率 (米軍の依存率)
兵站支援	150,794	31,142	181,936	4.8:1(83%)
パートナーシップの構築	14,064	10,057	24,121	1.4:1(58%)
管理業務	1,904	765	2,669	2.5:1(71%)
通信	1,743	1,796	3,539	0.98:1(49%)
部隊防護(警護・警備)	8,824	28,131	36,955	0.31:1(24%)
軍事支援	1,150	3,577	4,727	0.32:1(24%)
戦場把握	389	4,065	4,454	0.10:1(9%)
治安活動	197	63,110	63,307	0.003:1(0%)
指揮・統制	6	3,882	3,888	0.001:1(0%)
合計	179,071	146,525	325,596	1.2:1(55%)

資料源：統合参謀本部タスク・フォース発表資料